

## 単元について

単元のねらいを次のように設定した

- ・見通しをもち、より良い製品を作る意欲
- ・職場や施設で必要なコミュニケーションや協力し合う態度
- ・主体的に作業に取り組む姿勢

卒業後の職業生活や施設での作業等を見据え「職業」を中心として、「国語」、「数学」、「自立活動」の各教科等を合わせた授業である。それ以外の教科等をどう合わせるかについては、教育課程の編成も含め検討をしていきたい。

## 単元の目標

### 【職業科】

- ・働くことの意義を理解し、作業や実習に取り組み、働く喜びを味わう。
- ・道具や機械の操作に慣れるとともに、材料や製品の扱い方を身に付け、安全や衛生に気を付けながら作業や実習をする。
- ・自分の分担に責任をもち、他の者と協力して作業や実習をする。
- ・職場で使われる機械やコンピュータ等の情報機器などの簡単な操作をする。
- ・働くことの意義について理解を深め、積極的に作業や実習に取り組み、職場に必要な態度を身に付ける。
- ・いろいろな道具や機械の仕組み、操作などを理解し、材料や製品の管理を適切に行い、安全や衛生に気を付けながら正確に効率よく作業や実習をする。
- ・作業の工程全体を理解し、自分の分担に責任をもち、他の者と協力して作業や実習をする。
- ・職業生活に必要な実的な知識を深める。
- ・職場で使われる機械やコンピュータ等の情報機器などの操作をする。

### 【国語科】

- ・話の内容の要点を落とさないように聞き取る。

### 【数学科】

- ・長さ・重さなどの単位の関係が分かり、測定する。
- ・長さ・重さ・量などの測定方法を理解し、活用する。

### 【自立活動】

心理的な安定、コミュニケーション、人間関係の形成、身体の動き、環境の把握等の区分・項目を関連付けた内容

## 単元計画

次	時／日	学習活動	指導内容(学習指導要領から)
第一次	全 18 時間 (5日間)	幼稚園販売会に向けてより良い製品を作ろう	【職業】1段階(1)(2)(3)(7), 2段階(1)(2)(3)(4)(7), 【国語】1段階(1), 【数学】1段階(2), 2段階(2), ※ 中学部の内容
第二次	全 44 時間 (13日間)	学習発表会とゆめタウン販売会 に向けてより良い製品を作ろう	【自立活動】心理的な安定, コミュニケーション, 人間関係の形成, 身体の動き, 環境の把握等の 区分・項目を関連付けた内容

## 単元の個人目標及び本時の目標 (抜粋)

生徒	単元の個人目標	本時の個人目標
A 生徒 3 年	○ 正確で確実な作業を行い, 卒業後の進路に必要な力を身に付ける。(職業-高-2)	○ 時間いっぱい集中し, 正確な作業を行うことができる。(職業)
	○ 後輩に分かるよう, 道具の使い方や製品の取扱い方を伝えることができる。(国語-高-1)	別時の授業で本時の目標としてあげる。
	○ mmやcmの単位を理解し, 材料の長さを正確に測ることができる。(数学-高-1)	別時の授業で本時の目標としてあげる。
	○ 場面や状況を考えながら, 必要なコミュニケーションを行うことができる。(自立活動)	○ 場面や状況を考えながら, 報告や質問, 声掛けする。(自立活動)
B 生徒 3 年	○ 丁寧に製品作りすることを意識し, 集中して作業に取り組むことができる。(職業-高-1)	○ 丁寧に製品作りすることを意識し, 集中して作業に取り組むことができる。(職業)
	○ 教師の話や指示の要点を正しく聞き取ることができる。(国語-高-1)	別時の授業で本時の目標としてあげる。
	○ mmやcmの単位を理解し, 材料の長さを正しく測ることができる。(数学-高-1)	別時の授業で本時の目標としてあげる。
	○ 自分の心理状態を理解した上で, 場面に応じたコミュニケーションを意識する。(自立活動) ○ 自分に合った工程に没頭することにより, 情緒の安定を図る。(自立活動)	別時の授業で本時の目標としてあげる。  ○ 任された工程に没頭し, 気持ちを安定して作業に取り組む。(自立活動)

## 学習の様子



木工室に集合したら、まずホワイトボードの日程や自分の役割を確認して、日誌を記入します。



自分の役割の仕事に集中して取り組むことができました。教師から機械の使い方を聞き、新しい仕事にも取り組みました。



## 本時の展開

時間	学習活動	指導・支援	
		L1	L2
9:40	○日誌に工程や目標を記入する。	○ホワイトボードに工程を予め示し、注視できるよう必要に応じて指さしする。 ○日誌の記入の仕方を随時説明する。	○日誌の様式を複数準備し、書くことに苦手意識のある生徒には、記入の少ない様式を準備し一緒に行う。
9:45	○挨拶する。	○モデルを示す。	○挨拶後に礼をしているか確認する。
9:45	○単元(販売会)についての教師の話聞き、作業の目的を理解し、今後の見通しをもつ。 ○今日の作業についての話を聞く。	○目的や見通しが理解できるようワークシートを準備する。 ○簡潔な説明を心がける。	○書くことに苦手意識のある生徒と一緒に記入を進める。 ○理解を促すよう、日誌の内容を一緒に確認する。

9:55	<p>○リーダーが「5S運動」のかけ声をし、作業の準備をする。</p> <p>○作業に取り組む。 【基本の担当】 &lt;椅子&gt; ●●、●●(牟田) &lt;ミニすのこ&gt; ●●, ●●, ●●, ●●(山北), ●●, ●●(嵯峨)</p>	<p>○全体を把握しながら、補助具や道具の配置等、作業しやすい場の設定を確認する。</p> <p>○全体と担当の生徒の様子を見ながら、適宜、態度面や技術面での指導、助言を行う。</p> <p>○ミニすのこ組立ての補助具を準備しておく。</p>	<p>○個々に材料等を入れたケースを準備する。</p> <p>○担当生徒の活動の状況に応じて、指示や助言をする。</p> <p>○担当の生徒と一緒に作業しながら、適宜、モデルを示すなど、技術面や態度面の指導、助言を行う。</p> <p>○視覚的に理解を促し、できるだけ一人で作業できるよう、組立ての手順書や塗装の見本を準備しておく。</p> <p>○L1の担当生徒の指導・支援の補助を行う。</p>
10:30	<p>○リーダーが全体に声かけし、休憩に入る。</p>	<p>○リーダーの作業場にタイマーを準備する。</p>	<p>○作業の区切りに応じて、休憩の声掛けを行う。</p>

### 本時の目標の評価（抜粋）

	目標	評価基準	評価	気付き、次回に向けて
A 生徒	① 時間いっぱい集中し、正確な作業を行うことができる。(職業)	同じサイズの木栓を約30分間で、30個つくることができたか。	◎	集中して作業し50個以上作ることができた。しかし、疲労もあったので、ペースは調整する必要がある。
	② 場面や状況を考えながら、報告や質問、声掛けする。(自立活動)	必要性を考えて、友達に助言したり、教師に質問したりし、時間に合わせて休憩の声かけができたか。	◎	友達への助言の場面はなかったが、教師への質問や、タイマーを見て休憩の声かけは的確にできた。
B 生徒	① 丁寧に製品作りすることを意識し、集中して作業に取り組むことができる。(職業)	ドリルが板を貫通しているかを全て確認しながら、約30分間で下穴を20個空けることができたか。	○	1回貫通していないことがあったが、確認を促した後はできていた。最初の約束を丁寧に説明する必要がある。
	② 任された工程に没頭し、気持ちを安定して作業に取り組む。(自立活動)	無言でドリルに向かい、時間いっぱい作業を続けることができたか。	◎	この時間は、無言で時間いっぱい作業を続けることができた。

## 単元を終えて

### 学部での検討（今後はどうつなげるか）

- ・「自立活動」の目標については、個々に目標や内容が異なるため、単元では全員目標として挙がっていても、本時の目標として挙がる生徒もいればそうでない生徒もいた。個別の指導計画とは、必ずしも一致しなかった。個別の指導計画に挙げていなくても自立活動の目標として考えられるものもある。
- ・手立て等の改善点については、次時から改善、変更につなげることができた。
- ・多くの工程の経験を保証していくことが大切。生徒に合った内容と、販売状況のバランスを考えながら、新製品やそのための工程を今後も模索していきたい。
- ・今後も木工をはじめとする作業学習を継続することが基本だが、販売の回数や、他の授業時数、現場実習期間との兼ね合いで検討していきたい。

### 全校授業検討会で出された意見等

- ・販売に依らないアプローチ（例えば、校内に向けた製品の活用など）も探っていきたい。報酬だけでなく、仕事そのものへのやりがいをもたせるような工夫をする。例えば、ある生徒にリーダー的な存在になって欲しいという願いがあれば、それをどう目標としていくかが課題である。
- ・個人目標において複数の内容があり、評価が難しい。評価基準を含めシンプルにすべき。また、目標・評価基準と、評価・次回に向けての内容のつながりが分かりにくいところがあった。
- ・教育課程について、括弧書きで示される教科等の合わせ方の検討も深めていきたい。作業学習で、他の教科等の目標をどう合わせるかについても検討が必要である。
- ・小学部では、黙々と作業…というより、プレゼントの相手を知るなど具体的に意欲付けしてから取り組むことが多い。
- ・小学部は、生活に即していろいろな力をつけていく段階、中学部はその可能性を伸ばしていく段階、高等部は職業人としての資質を高める段階と考えてはどうか。
- ・中学部との作業における連携、合同作業の可能性を考えていきたい。
- ・現場実習では、学校とは違う評価を受けることも多い。仕事のスピードは大切だが、それは就職してからでもよい。まずは仕事とコミュニケーションの丁寧さが必要。それをどう小・中・高で高めていくかが課題である。

### 授業検討会を受けて改善した点

- ・販売会だけに依らないで、仕事そのものへのやりがいをもたせることができるように、学校内の給食室や調理室で使う台拭き作りをして学校内で役に立つ経験をしたり、話し合い活動を多く取り入れ生徒が自分たちで考え工夫をしながら作業に取り組めるようにしたりと活動の内容や方法等の工夫を行った。
- ・責任感を育むことやリーダーの育成を目指し、グループ作業を取り入れたり、話し合い活動の司会進行を生徒に任せたり、先輩が後輩に作業のやり方を教える機会を設定したりして、各生徒が役割をもてるようにした。

- ・スピードではなく、仕事の丁寧さやコミュニケーションをより重視した指導内容、単元構成を検討した。

作業農耕部、縫工部 作業学習「販売会に向けてよりよい製品を作ろう」 令和元年6月

## 単元について

### 年間指導計画の検討

本校高等部では、昨年度3月と今年度4月に、今年度の年間計画や単元構成、内容等について検討を行った。作業学習の年間指導計画及び単元構成については、昨年度の評価や今年度の生徒の実態から、スピードよりも仕事の丁寧さ、コミュニケーションをより重視した内容で行うことが望ましいとの意見が出た。そのため、販売会を昨年度の3回から2回に減らして実施することにし、単元の構成を「販売会を目標にして見直しをもつ、製品を作る、販売する、振り返る」とし、販売会を軸にした単元を1年間で2回設定することとなった。

### 研究授業における単元の内容設定までの検討

今回研究授業を行った、作業学習「販売会に向けてよりよい製品を作ろう」は、9月20日実施予定の幼稚園販売会に向けての単元であり、6月4日から9月24日までの長期間の単元である。内容設定にあたっては、まず、どのような教科・領域を合わせて指導するかの検討を行った。昨年度11月に実施した単元「販売会に向けてより良い製品を作ろう」においては、「職業」「国語」「数学」「自立活動」を合わせて指導を行っている。単元終了後、「自立活動の目標については、個々に目標や内容が異なるため、単元では全員の目標として挙げていても、本時の目標として挙がる生徒もいれば、そうでない生徒もいた」という課題が挙がった。そのため、今回の単元では、「自立活動」を挙げず、「職業」「国語」「数学」を合わせて指導を行うこととなった。

職業・販売会にむけての活動は、自分たちが生産したものが売れる喜びを味わうことができ、職業の目標である「勤労の意義について理解する」ことが期待できる。

国語・販売会に向け、どのように接客すればよいか考え、挨拶や言葉遣いを意識して練習したり、製品の良さを伝えるためのチラシを考えたりすることで、国語の目標である「伝え合う力」の高まりが期待できる。

数学・製品を作る過程において長さや重さをはかったり、販売会の売り上げ目標を立て、そのために必要な製品の数や量を考えたりすることで、数学の目標である「生活に必要な数量などに関する理解」の深まりが期待できる。

昨年度、2・3年生の生徒は、販売会に向けた同様の単元を学習する中で、挨拶、返事、報告を自ら行うことや時間いっぱい作業に取り組むなどの働くための基礎的な態度を身につけてきている。作業技能に関しては、ある程度複雑な工程を担当する生徒、平易な工程を継続的に担当する生徒など、実態に

幅があるが、それぞれが個に応じた力をつけてきている。1年生の生徒は、体験学習を経て、4月末に作業部が決定し、各作業部での活動に少しずつ慣れてきたところである。

本単元は、販売会を軸にした単元構成をすることにより、販売会に向けて目標や役割を決め、製品を作り、売れる喜びを味わい、さらによりよいものを作ろうと意欲を高めることができ、製造、販売に必要な事柄を実際的に学ぶことができる。また、人とのかかわり方、コミュニケーションなどについても学ぶことができる。あと数年で社会に出る高等部生徒にとって、実際生活に即した学びは、卒後の生活につながるものと考えられる。

## 単元のねらい

- 農作業や製品作りをとおして、様々な仕事を行うための知識や技能を高める。
- 販売会に向けて見通しをもち、新鮮な野菜やより良い製品を作る意欲を高める。
- 職場や施設、販売会で必要なコミュニケーションや協力し合う態度を身に付ける。
- 道具の使い方や準備・片付けの仕方を身に付け、安全に留意しながら主体的に作業に取り組む。

## 単元計画

次	時	日時	学習活動	指導内容（高等部学習指導要領から）
1	2時間	6/4（火）	幼稚園販売会への見通しをもと	職業Ⅰ－（1） 国語ⅠⅡ－（1）（2） 数学Ⅰ－（1）
2	62時間 （14日間）	6/4（火） ～ 9/17 （火）	幼稚園販売会に向けてよりよい製品を作ろう	職業Ⅰ－（1）（2）（3） 職業Ⅱ－（1）（3） 国語ⅠⅡ－（1）（2） 数学Ⅰ－（1）（2）
3	3時間	9/20（金） 午前	幼稚園販売会に向けて理想の店づくりを考えよう	職業Ⅰ－（1） 国語ⅠⅡ－（1）（2） 数学Ⅰ－（4）
4	2時間	9/20（金） 午後	幼稚園で販売をしよう	職業ⅠⅡ－（1）（3） 国語ⅠⅡ－（1）（2） 数学Ⅰ－（4）
5	1時間	9/24（火）	販売会の振り返りをしよう	職業Ⅰ－（1） 国語ⅠⅡ－（1）（2） 数学Ⅰ－（1）

## 単元の個人目標及び本時の目標（抜粋）

### 単元の個人目標

生徒	個人目標
C 生徒 (縫工部)	①mm や cm の単位を理解し、材料の長さを測ることができる。数学 I - (2)
	②作業工程中、注意をするポイントを理解し作業を行うことができる。職業 II - (1)
	③自分の役割を理解し、友達と協力して作業を行うことができる。職業 II - (3)
	④場や相手に応じて言葉遣いや声の大きさ、話す内容に気をつけてあいさつや報告、質問、販売をすることができる。国語 II - (2)
	⑤販売会を通し、物を作ったことが社会に役立つことを知り、仕事の喜びを感じることができる。職業 I - (1)
D 生徒 (農耕部)	①販売会を通し、育てた野菜や作った製品が売れることにより、仕事の喜びを感じることができる。職業 I - (1)
	②活動に必要な農耕道具を準備し、適切に取り扱いながら活動できる。職業 I - (2)
	③チームのリーダーとして、他の生徒と協力して作業することができる。職業 I - (3)
	④作物の数や肥料の量を正確に数えたり、量ったりする。数学-I (1) (2)
	⑤チーム内での話し合い活動において、他の生徒の話を聞きながら自分の考えを伝え、話をまとめることができる。国語 II - (1) (2)

### 本時の個人目標

生徒	個人目標	3つの柱
C 生徒 (縫工部)	①自分の役割や作業内容を確認し、販売会に向け先輩と協力してマスクづくりをすることができる。職業 II - (3)	ウ
	②先輩の話を聞き、分からないことを質問したり、作業終了の報告をしたりすることができる。国語 II - (2)	イ
D 生徒 (農耕部)	①チームのリーダーとして、他の生徒と協力して作業することができる。職業 I - (3)	イ
	②チームのリーダーとして、話し合い活動において、他の生徒の話を聞きながらまとめることができる。国語 II - (1) (2)	イ

育成を目指す資質・能力の3つの柱

ア 何を理解しているのか、何ができるか（「知識・技能」の習得）

イ 理解していること・できることをどう使うか（「思考力・判断力・表現力」の育成）

ウ どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（「学びに向かう力・人間性等」の涵養）



## 学習の様子

### 【縫工部】



縫工部の作業室で、真剣に布製品作りに取り組みます。



先輩から教えてもらいながら、マスク作りに取り組みました。友達と一緒に挨拶や報告の練習をしました。



### 【農耕部】



作業に取り組む前後には、グループごとに話し合い活動をして、役割の確認をしたり、反省をしたりしました。



仲間と協力しながら、畑作業をがんばりました。草むしりや土興しをして、種まきの準備をしました。



本時の展開

【縫工班】

時間	学習活動	指導・支援	
		L1	L2・L3
9:40	○日誌に今日の作業内容や目標を記入する。	○あらかじめ作業工程や内容をホワイトボードに記入し、生徒が自分で確認し、見通しをもつことができるようにする。 ○必要に応じて今日の作業目標を検討するヒントを提示する。	○目標設定や作業準備で支援の必要な生徒に言葉かけを行う。
9:50	○朝礼をする。 ・あいさつをする。 ・作業のきまりを確認し、目標の発表をする。 ・前時の振り返りの話を聞き、作業の目的を理解し、今後の見通しをもつ。	○手洗いや日誌の記入等の作業の準備がそれぞれできているか確認をする。 ○前時決定したことを確認し、今後の見通しをもつことができるようにする。 ○前時話し合いで決定した役割のもと、自分が担当した作業に責任をもって取り組むように伝える。	○生徒と一緒に朝礼に参加し、必要に応じ、目標発表や前時の振り返りの確認の支援をする。
10:05	○作業準備を済ませ、作業を行う。	○生徒とともに作業をしながら、製品のチェックや生徒の作業の様子を観察、材料の補充等を行う。 ○生徒が担当している製品のできをチェックできるよう必要に応じ、チェックのポイントを伝える。	○生徒とともに作業をしながら、製品のチェックや生徒の作業の様子を観察、材料の補充等を行う。

<作業内容>

マスクづくり・・・A 生徒, B 生徒 ※マスクづくりの手順を B 生徒が後輩 A 生徒に伝える。  
ハンカチづくり・・・G 生徒, L 生徒 アイロンビーズ小物づくり・・・F 生徒, I 生徒, J 生徒, K 生徒  
モップづくり・・・C 生徒, E 生徒, G 生徒 アイロンビーズ仕分け・・・H 生徒  
布さき・・・H 生徒 さきおりコースターづくり・・・D 生徒 イラスト描き・・・I 生徒  
ビーズアクセサリづくり・・・H 生徒

10:30	○部長の言葉かけで、休憩に入る。 ・部長は時計やタイマーで時刻を確認する。	○生徒の休憩時間の過ごし方を観察しながら、生徒の体調を確認したり、休憩が必要などときには言葉かけをしたりする。	○生徒とともに休憩をし、必要に応じて休憩時間の使い方について言葉かけをする。
-------	------------------------------------------	---------------------------------------------------------	----------------------------------------

【農耕班】

時間	学習活動	指導・支援	
		L1	L2・L3
	※作業着に着替え、農耕実習室に集合し、チームごとに座る。		
9:40	1 作業日誌に目標と作業内容を書く。	○作業日誌を準備し、目標と活動内容を板書しておく。	○必要に応じて、作業日誌の記入を支援する。
9:45	2 始めのあいさつをする。	○部長に指示をする。	
	3 本時の学習の目標と流れを聞く。	○活動目標と内容、時間を分かりやすく説明する。	○牟田T:活動内容、使う道具などを詳しく説明する。 ○牟田T以外のL2:必要に応じて、活動内容の補足を行う。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           チームで協力して畑の整地をしよう         </div>		
	4 全員で作業の決まりを読む。	○生徒をリードしながら読む。	○生徒と一緒に読む。
9:50	5 2チームに分かれ、役割分担を話し合う。 Aチーム:N 生徒, P 生徒, R 生徒, T 生徒, V 生徒, W 生徒 Bチーム:M 生徒, O 生徒, Q 生徒, S 生徒, U 生徒	○ワークシートを準備し、これをもとに話し合うように指示する。 ○主にBチームに対して、必要に応じて、助言を行う。	○必要に応じて、助言を行う。 Aチーム: 宮崎T, (牟田T) Bチーム: 吉田T, (徳島)
9:55	6 グループごとに活動に必要な道具を準備する。	○質問してきた時や困っている時のみ助言する。	○質問してきた時や困っている時のみ助言する。
10:00	7 道具を持って、農耕室を出た後、牟田Tと活動の確認をする。	○必要に応じて助言や生徒の移動支援を行う。	○牟田T:準備した道具を確認した後、必要に応じて作業のやり方や道具の使い方をを行う。 ○牟田T以外のL2: 必要に応じて助言や生徒の移動支援を行う。

10:30	8 グループごとに活動を始める。	○質問してきた時や困っている時のみ助言する。 ○必要に応じて見本を見せる。	○必要に応じて助言や見本を示し活動を支援する。
	9 休憩し、水分補給する。	○終了時刻を知らせ、休憩するように指示する。	

本時の個人目標及び単元の個人評価の評価（抜粋）

本時の個人目標の評価

生徒	個人目標	評価	次回に向けて
C 生徒 (縫工部)	①自分の役割や作業内容を確認し、販売会に向け先輩と協力してマスクづくりをすることができる。職業Ⅱ-(3)	○	自分から役割が確認できていた。マスク折りはコツが必要なため、苦戦していたが、先輩の作り方を見たり、先輩からのチェックを受けたりしながら、マスク作りをすることができた。丁寧さ、正確さは今後の課題である。
	②先輩の話を聞き、分からないことを質問したり、作業終了の報告をしたりすることができる。国語Ⅱ-(2)	△	先輩がA生徒が困っている様子を見てすぐに説明していたため、分からないことを自分から質問する場面は見られなかった。報告は声が小さい。声の大きさや報告の仕方は今後取り組みをする。
D 生徒 (農耕部)	①チームのリーダーとして、他の生徒と協力して作業することができる。職業Ⅰ-(3)	○	協力の大切さを繰り返し伝える。
	②チームのリーダーとして、話し合い活動において、他の生徒の話を聞きながらまとめることができる。国語Ⅱ-(1)(2)	△	司会を他の生徒に任せ、まとめ役に努めることを大切なことを伝える。

単元の個人目標の評価

生徒	個人目標	評価	次回に向けて
C 生徒 (縫工部)	①mm や cm の単位を理解し、材料の長さを測ることができる。数学 I-(2)	△	ものさしの使い方は分かっているが、測るものの端にもものさしの0を合わせる際にずれたり、印をつける際にずれたり、目盛りを読み間違ったりする場面が多々あり、正確に測ることができていない。リボンの長さ測りなど、長さの仕事を毎時意図的に設定する。
	②作業工程中集中するポイントを理解し作業を行うことができる。職業 II-(1)	○	前半の目標、マスクづくりについては、布を折る際のポイントを理解し作業ができています。引き続きマスク作りに取り組む。後半は新たな作業にも取り組む。
	③自分の役割を理解し、友達と協力して作業を行うことができる。職業 II-(3)	○	任された仕事に取り組むことができている。毎回先輩と一緒に作業する中で、先輩に分からないことを尋ねながら正確に製品作りができるようになってきている。
	④場や相手に応じて言葉遣いや声の大きさ、話す内容に気をつけてあいさつや報告、質問、販売をすることができる。国語 II-(2)	△	声が少し大きくなってきた。先輩に質問をしたり報告をしたりする場面も増えてきたが、声の大きさや言葉遣いは今後も課題。言葉遣いについては、リマインダー等参考になる文例を用意してみる。
	⑤販売会を通し、物を作ったことが社会に役立つことを知り、仕事の喜びを感じることができる。職業 I-(1)		販売会はまだ終了していないが、任された仕事に一人で取り組み、製品を完成させることで、製品作りを楽しむ姿が見られている。
D 生徒 (農耕部)	①販売会を通し、育てた野菜や作った製品が売れることにより、仕事の喜びを感じることができる。職業 I-(1)		販売会がまだ終了していないため、後日、評価する。今後に向けては、長期の単元であるため、校内や付近の公民館などでミニ販売会を行い、さらに仕事の喜びを感じる機会を増やしたい。
	②活動に必要な農耕道具を準備し、適切に取り扱いながら活動できる。職業 I-(2)	○	道具の準備・片付けに進んで取り組み、よく使う道具の取り扱いも適切になってきたため、もっと多くの種類の道具を使うような活動を準備する。
	③チームのリーダーとして、他の生徒と協力して作業することができる。職業 I-(3)	○	単元当初に比べると周りを見て他の生徒と協力できるようになってきた。より協力を意識できるよう集団の単位や作業する場所の広さを工夫したい。
	④作物の数や肥料の量を正確に数えたり、量ったりする。数学-I(1)(2)	△	作物の数を数えたり、軽量の数の回数を増やしたりして、正確さを高めていく。

	⑤チーム内での話し合い活動において、他の生徒の話を聞きながら自分の考えを伝え、話をまとめることができる。国語Ⅱ-(1)(2)	△	司会を他の生徒に任せ、まとめ役に努めることを継続していく。
--	----------------------------------------------------------------	---	-------------------------------

## 単元を終えて

- ・作業学習では、販売学習を中心に単元を組むことが有効と考えられるが、ものの長さを測る学習等は、生徒の実態を他教科の教師と共有し、数学で連携して指導することなども必要である。
- ・今回、製品の注文を受け販売をする機会が複数回あった。少ない数の製品販売であるが、売れる喜びや製品への思い等は高まっている様子がうかがえた。総合的な学習の時間で関わっている公民館に依頼するなどして、販売を行いその経験をまた製品づくりに生かすことができるよう計画的に単元作りができるとよいと考える。後期の単元構成に活かしていきたい。  
農耕班では、作物によっては、販売会に出す前に販売しなければならない。そこを利用し、これまで作物は、無人販売していたが、生徒が関わり、ミニ販売会を行い、販売会への見通しをもたせることができると考える。
- ・生徒が相談をしながら考えた役割や作業工程を視覚的に示すことで、自分で確認し意欲的に活動する生徒が増えてきた。製品の作り方を教えあったり、作業終了後の製品チェックを生徒同士で行ったりする場面を今後も繰り返し設定していきたい。社会の中では人とのやりとりは不可欠であり、教師や友達とかかわる場面を設定することで、製品作りのポイントを意識して作業できるようにしたり、報告の仕方のレベルアップを図ったりしていく。
- ・他の生徒との協力はできたが、目標に挙げた「リーダーとしての役割を果たす」は難しかった。生徒の良さを活かし、他の生徒の良さも活かすために、さらに少人数のグループを編成し、適切な目標設定を行っていきたい。